

NRE大森弥生ハイツがダブル“受賞”

NRE大森弥生ハイツは3月31日付「週刊ダイヤモンド」、老人ホームランキング 東京都の介護型5年総費用2,500万円未満の部で、トップにランキングされました。同時にNRE大森弥生ハイツは4月13日の営業戦略会議で、社長表彰を受けるというダブル“受賞”の快挙を成し遂げました。「週刊ダイヤモンド」のランキングでトップというのは、何かの賞を受賞したということではありませんが、2009年度に続く、2度目のトップランクという栄誉です。今回のランキング対象は263施設もある中でのトップランクで、編集部では特筆に値するものとして、表彰式席上の浅井社長のあいさつと、NRE大森弥生ハイツの片山施設長への緊急インタビューを取り上げました。

(中川 久美子)



浅井社長あいさつ

「週刊ダイヤモンド」の評価は、抽象的、情緒的な評価でなく、数値化した客観的な評価だということに価値があります。たとえば、職員の退職率一つをみても、退職率が高いのが当たり前という業界にあって、NRE大森弥生ハイツの退職率は1ケタ台で評価は満点です。職員自らが職場に不満を持って介護にあたっていたら、良い介護サービスはできるはずがありません。だからといって、NRE大森弥生ハイツの職員の報酬が高いわけではありません。

どういふ秘訣があるのかなと思い、片山施設長の動きをそっと見ていたことがあります。そうしたら、施設長自ら、介護の最前線に立って、さりげなく職員に手本を見せていました。自然と職員のモチベーションは高まり、入居者にもこうした動きが自然と伝わるのでしょうか。数値化した評価ばかりでなく、入居者の評価も高い理由がわかる気がします。地元の大田区職員の方からも、身内を入居させたいと話がきているほどです。

NRE大森弥生ハイツへの高い評価はNRE全体を評価されていることでもあり、NRE社長として片山施設長はじめ、スタッフの方に改めて御礼を申し上げます。



片山施設長にお話を伺いました



Q. 1位になった要因について施設長はどうお考えですか？

A. 評価項目は、職員の体制・有資格者数・定着率など「職員の質」に関するものであります。「入居者と向き合い、入居者から学ぶ」ことの積み重ねにより、「人」が育った結果であると捉えています。入居者も職員も同じで、「人」を大切にすることを常に考えています。

Q. 日ごろから気をつけている点や工夫している点を教えてください。

A. 均一化・平準化ではなく、「その人らしさ」を尊重して、どこまでも個別化したサービスの提供を心がけています。また、サービス過剰は生活を壊します。「本人が望んでいることかどうか」という視点は不可欠です。

Q. 従業員のモチベーションアップ・維持のために何かされていることはありますか？

A. 入居者の平均年齢は90歳を超えています。私たちは、この時期を人生で最も大切な時期であると考えています。日々、最後のサービスとなる可能性があり、その時々に関わりに全力で取り組んでいます。そういった意味で、モチベーションが下がることはありませんし、自分の未熟さとも向き合っています。これは、高齢者福祉の職場が持つ価値だと思います。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 私たちは、「介護力のある家庭」を理想像としていますが、これは、大変ハードルの高い目標だと思っています。当たり前に個人が尊重されている家庭に、NRE大森弥生ハイツが近づけるよう、努力してまいります。加えて、「1つの社会資源として地域と日常的な繋がりを持つこと」、「介護事業の社会的価値を高めること」にも力を注ぎたいと考えています。